

知識と人間性を高め、 有意義な学生生活を

徳島大学長
青野敏博



ようこそ、徳大へ。

新入生の諸君、入学おめでとうございます。無事入学試験をパスし、晴れて徳島大学生になられ、さぞ希望に胸をふくらませていることでしょう。徳島大学の教職員はこそべて皆さんを心から歓迎いたします。

本校は昨年7月には「21世紀COE(Center of Excellence)・卓越した研究教育拠点プログラム」に2つの拠点が選ばれ、世界でトップレベルの研究大学の仲間入りを果たしました。また9月には「特色ある教育支援プログラム」にも国立大学24校のうちの1つとして採択され、教育面でも本校の優れた取り組みが実証されました。

大学時代は、知識の吸収とともに人間性を高め、真の友人を作り、社会に羽ばたく準備の期間です。諸君は、このような大学で学ぶことを誇りに思い、健康に留意され、有意義な学生生活を送られるようお願いいたします。

法人化で変わる国立大学

これまで国立大学は国の行政組織である文部科学省に属していましたが、平成16年4月から国立大学法人として独立した法人格を持つことになりました。大学の運営は評議会中心の学内運営から、役員会、経営協議会および教育研究評議会による運営に変わり、理事、経営協議会委員は外部からも招へいし、民間的発想を導入した運営となります。

これまでは文部科学省により厳密に予算の枠組みが決められていましたが、国からの補助金である運営費交付金は渡し切りで各大学の裁量により自主経営が可能になります。しかし、交付金の算定は、あげた実績の第三者評価により定められますので、各大学が策定する6年間の中期目標及び中期計画の達成に向けての厳密な自己管理を行う必要があります。

一方、在学生の身分や学生生活については何ら変化はなく、

教育のカリキュラムについてもこれまでどおりです。皆さんが一番心配している授業料については、平成16年度は値上げを行うことなく、又授業料の免除もこれまでと同様の割合で受けることができます。育英奨学金については、平成16年3月に日本育英会が解散し、代わって独立行政法人学生支援機構に引き継がれていますので、法人化されても奨学金を受けることができます。

徳大の目指すもの

本学では将来構想の柱として「徳島大学基本構想」を策定し、それに基づいて「中期目標 中期計画」を立てました。その骨子を説明しますと、

第一に、特色ある共通教育、学部教育および大学院教育のプログラムの策定です。教育を通して学生が人間性、専門能力および進取の気風を獲得するよう努めます。また、学生の能力開発の視点に立ち、学生の進学と就職を考慮して、専門基礎教育の充実を図ります。そのため教育および学生支援に対するファカルティ・ディベロップメントを推進します。

第二には、独創的で世界のトップレベルの研究拠点をめざします。蔵本地区では統合大学院の「ヘルスバイサイエンス研究部」を中心に組織横断的な研究を促進し、より独創的で高度な研究教育の発展を期します。一方、常三島地区では、工学部と総合科学部が大学院を統合し「シオテクノサイエンス研究部(仮称)」を設置し、文理工融合の体制を作り上げる検討を行います。

第三には、産学官の連携と幅広い地域貢献を行うことです。昨年9月に立ち上げた大学的財産本部を中心として、産学官の連携を密接にし、知的財産の保護と活用を図ります。又地域貢献では、公開講座の充実、地域貢献特別支援事業や環境防災研究センターの活動などを通じて地域に対して寄与したく思っています。



充実した大学生活のために 実りあるキャンパスライフをおくっていただくために教育担当副学長にお伺いしました

教育担当副学長としての抱負

国立大学法人徳島大学の教育担当副学長としての抱負からお聞かせください。

「知性がおどる徳島大学」というキャッチコピーを紹介しします(注)。これは、知性＝人間性＋専門性、おどる＝進取の気風、と対応させると本学の教育方針と合致します。地域社会への積極的な知の発信の意味も込められています。このような知性がおどる教育環境の実現を目指したいと考えています。

(注)平成14年6月に行われた全学FD推進プログラム合宿ワークショップ研修会にて提案・採択された。

大学の役割

大学の役割は、知の継承、知の創造、そして知の応用であると考えられます。4年間の大学生活の中で基礎知識、専門知識、応用力などをどのように構築していけばよいのでしょうか。

お話のとおり、大学は知性・学術を中心に社会と広範囲かつ深く関係しています。学生のみならず、4年間の大学生活で一人ひとりの未来設計に必要な「知識の獲得」と「学ぶ能力の獲得」のために、まずは基盤形成を心がけてはいかでしょうか。この基盤とは、体力と語学、それに情報科学です。これらはいずれも全学共通教育の教育方針の柱になっています。「学ぶ力」をつける意味で全学共通教育はたいへん重要で、知的な出会いを大切にすることが大切です。

自己の確立

大学では自己の確立が重要視されています。この点に関して学生へのアドバイスはありますか。



総合科学部

石田啓祐
教授

新入生の皆さんと共に

知性と感性を磨き、大いに感動する

これまでも、さまざまな視点から議論してきました。学部教育理念には「学問の枠にとらわれないこと、自然や社会の現象をさまざまな観点から分析し、関係分野の知識を総合させることで、社会の諸問題に対しての解決方法を考える」とあります。テーマを理解し、考えるためには、関連分野の基本をしっかり学ぶことが大切です。「自分がどんなテーマに興味があるか、テーマのために何ができるか」という思い、将来の自分をイメージし、目標を立て、計画的に実行する習慣が大切になります。卒業生は「教養や幅広い学びが大切だ」とのメッセージを寄せています。

例えば私の研究室では、「国会議事堂に使われている徳島県産石材」の調査を行っています。議事堂の内装には「大理石の博物館」といわれるくらい全国の大理石(石灰岩)が使われています。中でも、徳島県産の大理石は正面玄関から中央階段、議場の壁といった主要な部分にたくさ

知識の獲得だけでなく、人間力がこれまで以上に重要視される時代になっています。課外活動などがそのような能力形成の場として重要な位置づけをもっていると思います。協調力、統率力、コミュニケーション力など、正課授業では体得しにくい能力を身に付けることができます。また、部活によって多くの友達ができ、一緒に悩む、考えることができることも自己確立にプラスとなるでしょう。

学習支援

学生相談室、学びの相談室など学生支援の組織が充実してきました。これらの支援組織は学生に対してどのような役割を持っていますか。

各学部・学科や全学共通教育では「学習支援室」が、また全学的には「学生生活支援センター」に「学生生活支援室」「就職支援室」「学生相談室」があります。どんな些細な問題でも困ったときには気軽にこれらの窓口を利用してください。また、みなさんのアイデアでキャンパスが美しく、過ごしやすいくなるかもしれません。気づいたことはぜひこの窓口にお知らせください。

新入生へのメッセージ

最後に新入生に期待することをお願いします。本学の教育理念のひとつに「進取の気風」を涵養する



人材育成が謳われています。この「自ら進んで物事を行う」積極性こそ、みなさん一人ひとりの基盤力・人間力として評価されます。みなさんがこの学園で知性をおどらせることを期待しています。

全学共通教育センター

桑折 範彦

皆さんを歓迎し、徳大での「学び」を支援します。

徳大での「学び」は、初年次は全学共通教育の授業が中心となります。全学共通教育には、人間・社会・自然・情報をより深く理解する科目を中心として、外国語科目や健康スポーツ科目、専門分野で必要となる基礎的科目など、幅広い分野の多彩な授業があります。「自ら学ぶ」姿勢と社会で自律的に仕事を行う能力を培うことを目指しましょう。

大学での「学び」の主体は皆さんですので、「自分が学びたいこと」をよく見据えて頂きたいと思えます。大学での「初めの歩み」として、今年度、「大学入門講座」を学部学科ごとに実施します。また、「共通教育学習支援室」を開設して、皆さんの「学び」を支援していきたいと思っています。皆さんの意見・要望などを



佐野 壽昭
教授

医学部新入生の皆さんへ

医学部

医学部新1年次の学生諸君、ご入学おめでとうございます。厳しい受験勉強を終えて、今は晴れがましい思いに満ちていることと思います。皆さんはこれから4年ないし6年の大学生活を送ることになった訳ですが、大学での教育はこれまでの勉強とはかなり異なるということをまず自覚して下さい。大学で学ぶべき知識の量は余りに膨大で、それらを全部細々と教授する時間はありません。大学は知識を授けてくれる所ではなく、自らが問題点を見つけ出し、解決する能力を開発する所です。考え方の方法を学びます。私たちの教育プログラムの究極の目標は、皆さんが自学自習の習慣を身につけ、問題発見解決能力を向上させることにあります。私たちはそれを支援するために活動しています。

皆さんが医学部に入学したことを早期に実感できるように、1年次から医学に関連のある講義や実習がカリキュラムに組み込まれています。専門的なことが知りたければ、遠慮せず担当の先生の部屋に訪れるのも一法です。一方、広く教養を身につけることは将来のために大変重要です。常三島キャンパスでの授業を決しておろそ



野間隆文
教授

大学生活をエンジョイしよう!!!



新入生の皆さん、徳島大学入学おめでとうございます。心から祝福させて頂きます。私は、昨年度1年生の担任をいたしました。その経験から、新入生へのメッセージを3つ述べたいと思います。大学生活をエンジョイするための参考になるかも知れません。

1 交通事故に気を付けよう。

ワッソーと思うかも知れませんが、昨年度の歯学部1年生は55人中4人(7%)が交通事故に遭いました。横断歩道を自転車で渡る際に、左折の車に巻き込まれることが多かったようです。けつして浮かれて行動しているわけではないと思いますが、これが現実です。自分自身の安全のために周囲へもちよつと気くばりをお願いします。

2 「学びの技」を実践しよう。

大学生活をエンジョイするのに役立つことの1つが「学びの技」を知って、実践してみることです。学びの技とは、勉強方法を理解して、勉強することの楽しさを実感する方法のことです。これは何も大学の勉強をして単位を取るためのものではありません。現在の不確実性の時代を生きていくのに役立つ

つ技です。16年度からは入学時のオリエンテーションから始まる授業のひとつとしても登場してきます。「学びの技」を練習しながら、生きていく技を体得し、大学生活をエンジョイしてみてください。大学は生き方の練習場です。

3 社会人の練習をしよう。

きつと皆さんの多くは、これまで御両親の庇護のもとで、学校と家を往復し、ほとんどの時間を自分の時間(遊び、クラブ、勉強)として過ごす良い生徒であつたと思います。当然大学に入学してからも、自宅あるいは下宿の部屋と大学を往復することになります。「見違ふのは、受験が無くなったといふことくらいです。しかしよくみてみると、様々な場面において自己責任で決定する事柄が多くなつてきます。つまり、大学生活は自立するための練習場です。また、対人関係も自己責任で対応することが基本になってきます。このようなどは社会人としては当たり前前事ですが、大学1年生では自己責任で対応できない人も何人かいました。積極的にクラブ活動に参加して、自分からいろいろな人間関係を築き、社会人の練習をしてみてください。

本仲純子
教授

未来をになう大学生

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。困難な入学試験を突破して、長い受験のストレスから解放され、今希望と喜びに満ち溢れている事でしょう。

高校教育と大学教育の違い

皆さんは今日まで、先人が作り上げた学問を学び、理解し、記憶し、目的の大学入試に向けて勉強努力してきた事と思います。大学に入学後も、さらに高度な学問を学び、理解し、記憶していくことは同じです。しかし、一番違う点は「創造性」の教育と云う点です。いくら高校で数学の成績が良くても、それだけで数学者になれるというわけではありません。成績が良いという事は、教科書の内容を理解・記憶しうまく問題に適用する能力があつたといふことです。数学者には、さらに「創造性」という能力が必要になってきます。これは他のあらゆる場合にもあてはまりません。会社で、先輩に言われた事だけを繰り返しているだけで、会社の発展が望めるでしょうか。常に新しいことを考え出し、工夫するといふ前向きな心の働き「創造性」が必要になってきます。「創造性」を育むのが大学教育の大きな目的です。

創造性教育の推進

文部科学省支援「特色ある大学教育支援プログラム」に、徳島大学が「進取の気風を育む創造性教育の推進」というプログラムで採択されました。本学の教育への取り組みが高い評価を受けたのです。現在、創成学習開発センターが設置され、自立的、能動的な思考や知恵を生み出す学習法の展開がはかられています。この恵まれた環境の場で、十分に「創造性」を育てたいと思います。

期待される大学生

皆さんは社会システムの中の大学生という層に属しました。知的労働者として、未来の日本を支え、リーダーとしていく事を期待されているわけです。そのために、国が、社会が、4年あるいはそれ以上の長い年月を費やし、皆さんに人力と資金を投資しようとしています。このことを深く心に留め、大学生としての自覚と目的、理想と希望を持って、困難に屈しない強健な心身、豊かな創造性を育まれることを希望します。



福井裕行
教授

時間を大事に使おう



新入生の皆さん、入学おめでとうございます。希望に胸を膨らませておられることと思います。大学は高等学校と比べて遥かに自由なところですが、自由とは何かといふことを理解しなければなりません。大学に入学しても、何をすべきかが分からなくて、まごまごしているうちに、自由の意味をちゃんと理解せずに卒業する人が結構いるように思います。大学における講義は高等学校における講義とは違います。大学における講義は基本的な知識に加えて、学生の皆さんの自発的な興味を期待しています。講義に啓発され、学生各自の自発的な学習を期待しています。教官は皆さんが講義から専門分野へ興味を膨らませ、教官への直接的交流を期待しています。徳島大学の定員は教官との交流が行われやすいように、入学定員が高くないように設定されています。マスプロ教育に流れる大学が多く見られる中、皆さんはこの有利性を無駄にしないように希望します。

講義外の生活は、講義よりもさらに難しいかも知れません。高等学校では授業が済むと受験勉強が待っています。必然的に自由にできる時間は限定されます。大学では、受験勉強がないので、自由にできる時間は遥かに多く使えます。ところが、これが問題です。講義外の時間は各自の興味を有意義に利用されるために使われるべきなのですが、有意義に時間を使っているひとがどれくらいいるのか気になります。受験勉強から解放されたことで、無為に時間を過ごす生活や、少しは前向きかも知れませんが、遊びに没頭する生活を送ることはたいへん残念です。学年が上がつて、専門教育が忙しくなると自由な時間は再び限定的になり、結局は人生や社会を考える時間がなくなつてしまつてことになります。皆さん、時間は有り余るほど多くありません。大事に有効に使ってください。

創成学習開発センター

英 崇夫

工学部キャンパスの中央に、創造学習の実践の場としての「イノベーションプラザ」を設置します。学部・学科の枠を越えて集まったみなさんが、ものづくりの体験をしたりグループで討論するなどの活動をするスペースです。ミーティング、プレゼンテーション、機械工作、電子工作などのスペースが用意されています。教室では得られない実体験を自分たちの手で作りあげてください。こんなことをやってみたいというテーマがあれば大歓迎です。創造的な思考力や学力のつくことが約束されますので、いちよと気軽に立ち寄りみてください。



保健管理センター

大森哲郎

入学おめでとうございます。保健管理センターは、徳島大学を舞台に青春を過ごす新入生の皆さんを健康面から支えます。検診や内科診療、健康相談、メンタルヘルス相談などを行っています。気軽にご利用ください。

学生相談室

北村清一郎

入学おめでとうございます。課外活動を含め充実した学生生活を楽しんで下さい。学生相談室は何でも相談室です。勉強のこと、勉強以外のこと、困ったことがあれば、ご相談下さい。問題の解決に協力します。

大学開放実践センター

廣渡修一

ここは市民の生涯学習の拠点です。バラエティ豊かな公開講座のガイドブックを一度ご覧ください。また、FD(ファカルティ・ディベロップメント)の拠点でもあります。学生のあなたも市民と一緒に学んでみませんか? いつもとは「味違う」学習に巡り会えるかも。気軽にご利用ください。

